

②次世代スマート農業技術の開発・改良・実用化

【令和5年度予算概算決定額 250（-）百万円】

＜対策のポイント＞

畑作物や野菜・果樹等の収量安定化や省力化を実現し、**新規就農や畑作物等への転換・定着を促進**するための、**スマート農業技術の開発・改良・実用化**を推進します。

＜事業目標＞

収量安定化・省力化によって新規就農や畑作物等への転換・定着の促進に資するスマート農業技術を2以上開発。[令和7年度まで]

＜事業の内容＞

戦略的スマート農業技術の開発・改良

技術開発のニーズがありながらも、これに係るスマート農業技術開発が必ずしも十分でない品目や分野について、先端技術を駆使することによって畑作物や野菜・果樹等の**収量安定化や省力化を実現し、これら作物への転換・定着を促すとともに、非熟練者等による各種作業の習熟・効率化**にも資するスマート農業技術を開発・改良します。

＜事業イメージ＞

(開発技術例)
センシングや自動走行による麦・大豆の収量・品質の高位平準化

湿害危険箇所の把握

輪作する中で場所ごとの湿害リスクが不明確



センシングによる
湿害発生リスクの把握



排水対策

適切な高畝化や心土破碎施工には経験が必要



AIによる土壌条件等に
応じた畝立てや施工



雑草防除

対応策（狭畦密植）はあるが播種が難しい

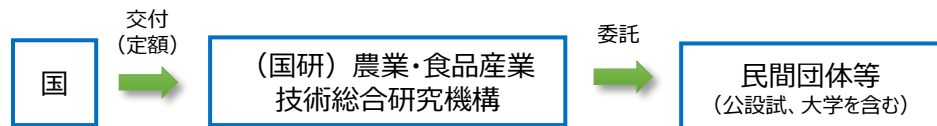


自動運転による
精緻な畝立て・播種



非熟練者等でも活用可能な技術

＜事業の流れ＞



新技術の社会実装による畑作物等への転換・定着や
非熟練者等による各種作業の早期習熟・効率化